

# 闘病記700冊 簡単に検索

国立情報学研究所  
市民団体

## ネットで疾患別紹介

患者やその家族の体験をまとめた闘病記を探し出せる「闘病記ライブラリー」が十二日、インターネットで公開された。「がん」など七百冊を疾患別に分類、本の装丁や目次も画像として表示され、内容を把握できる。昨年から公立図書館や病院で「闘病記文庫」を設置する施設が増えているが、専用の文庫がない図書館でも闘病記を見つけやすくなる。



ライブラリーは国立情報学研究所（東京・千代田）の高野明彦教授らと、図書館などに闘病記文庫の設置を手助けしている市民団体「健康情報プロジェクト」（石井保志代表）が協力して作成した。ホームページ（<http://toubyoki.info/>）では「闘病記ライブラリー」のホームページでは装丁や本の内容が分かる。

まず「がんⅠ」「がんⅡ 消化器」「脳の病気」「神経の病気」「心の病気」などの分類を表示。読みたい疾患を選ぶと、「悪性リンパ腫」「白血病」などをさらに細かい計五十七の病名から選択できる。

病名をクリックすると、書棚に並べた闘病記の背表紙の画像が表示され、背表紙をクリックすると、帯付きの表紙や裏表紙のほか、目次や前書き、出版した時期や出版社名が書かれている奥付を取り込んだ画像を実際に本を手にとったように見ることが出来る。

闘病記は書名に疾患名が書いていないケースも多く、患者やその家族が同じ疾患の闘病記を探しにくい。図書の分類でも「闘病記」はなく、図書館でも書棚から探すのは困難なのが現状。国立国会図書館も昨年八月から所有の約二千九百冊をホームページで検索する方法を紹介しているが、書

かれていない疾患名が分からない難点があった。今回、公開したライブラリーでは疾患別に分類しただけでなく、装丁や前書きなども見ることが出来るため、高野教授は「疾患別に選べるだけでなく、どのような経緯で書かれた本か簡単に知ることが出来る。患者やその家族などに実際の本を並べている図書館などと連動して活用してほしい」と話している。

